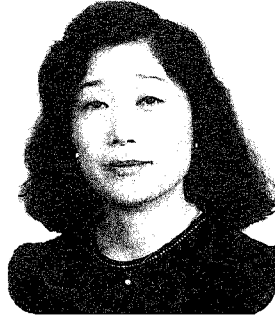


# 可能性は無限大

初等教育学科助教授 梶守光恵



私が都留文科大学に勤めて六年になりました。東京の池袋に育ったため、ビルの谷間で、四季の変化に心を奪われることもなく生きてきました。大月の駅で「あずさ」のドアが開いた時、初めて吸い込んだ空気の新鮮さに驚いたことを今でもはっきり覚えています。週のうち二晩を学生会館で過ごすため、ゆっくり都留のまちを散策したり、ボートと三ツ峠のてっぺんを眺めたり、ゆったりとした気持ちで過ごしています。それまで感じたことのなかった四季の変化を、自分の頬を通りすぎる風で知りました。一番好きなのは春で、富士急や中央高速から見える山々の色彩が毎週変化していくのを感じ動いて眺めています。

大学では、音楽（ピアノ奏法）を担当していますが、毎年、新生との出会いは楽しみの一つです。全国から集まってきた希望にあふれた彼らと接する中で、学ぶことが沢山あります。私としては、一人ひとりを深く知ってほしい、何とか音楽の喜びを知ってもらいたいと、心がけていますが、入学生の女子の大半は、小さい時からピアノを習っていて、ある程度の知識は持っています。男子の殆どは未経験者で、大きな手と頭脳が結びつかず、悪戦苦闘しています。そばで見ていると、こちらの方が途方に暮れる始末ですが、出来ないながらも諦めずに、一曲をていねいに仕上げる学生に出会うと、密かに、立派な人物だな、と思ったりしています。才能や器用さよりも、忍耐する力を持っているか、自分の弱さに勝てるかどうかで大きく違ってくると思います。小さな曲に完璧を求める姿勢が、どんな困難にも挑戦していける無形の財産を秘めているように思えてならないのです。演奏するということは、理解することと出来ることとは別

次元で、いくら方法がわかっても弾けるものではありません。細心の注意を払いながら、一つ一つの音を細胞にしみこませる思いで、繰り返し繰り返し、記憶し、その段階を踏んで初めて作曲者の思想、哲学、生きざま等が見えてくるのです。そうやって初めて、聴く人と共感しあえる、心の歌となっていくのです。

数年前、一人の音楽専攻生が、「四年生の卒業演奏会にショパンの英雄ポロネーズを弾きたい。」と言ってきました。一瞬絶句しましたが、よく聞いてみると、小さい頃からいつもレコードでその曲を聴いていて、いつの日か弾けるようになりたい、と思いつけてきたというのです。「就職してしまえば、舞台上で演奏するチャンスもないだろう。大学の思い出に、夢を適えさせてほしい。」という言葉に、今の彼女のテクニクでは無謀だと思いつつも、熱心に勉強するならば、と許可しました。ある程度のテンポで、左手のオクターブの連続を弾くことは、彼女にとっては大変なことでした。朝から晩まで練習室にこもり、私が音楽棟に行くと、必ず英雄ポロネーズが聞こえてきました。英雄とは程遠いな、と思いつつも、彼女の熱心に脱帽していました。演奏会までの間さまざまな困難がありましたが、当日は、ピンクのドレスを着て、精一杯演奏してくれました。その姿から、私は、人間の可

能性の偉大さに感動し、また、彼女が乗り越えてきた苦勞を思い、思わず涙がこぼれました。その時、「教えることは学ぶこと」という恩師の言葉を思い出していました。人間の可能性は無限大であることを教えてくれる、すばらしい都留の学生たちの中で、私も自身の限界に挑戦しながら一緒に学んでいる毎日です。

## ふるさと創生事業

### 「美の田舎の郷」コンサート開催

声楽家

島田祐子先生を招いて

内容

第1部 市民によるコンサート

午後3時30分

○市内小・中・高校生の合唱

または合奏

○都留文科大学生の合唱または合奏

は合奏

○都留市民コーラスグループ

の合唱

第2部 音楽鑑賞

午後4時30分

○声楽家「島田祐子先生」の

独唱

入場料 無料

申込・問合先 都留市田原三十八

― 都留文科大学総務課内「美

との田舎の郷」コンサート係

☎ (43) 4341

日時 11月29日(木)

午後3時30分～6時

会場 都留文科大学音楽研究棟

一階ホール

### 女性学公開講座について

期日 10月6日(土)

午後1時30分～4時30分

場所 都留文科大学

テーマ 現代社会と女性

講師 弁護士 渥美雅子

受講料 無料

主催 山梨県教育委員会

◎どなたでも自由にご参加下さい。